

# 社会の中の科学 Science in Society — 科学技術基本計画下の日本の科学研究者は 何を社会から望まれているのか。 —

## Social commitment of the Japanese scientist under Science and Technology Basic Plan



小林 俊哉

知識科学研究科

2009 **2/19** 12:40 – 13:20

知識科学研究科講義棟 2F K3・4講義室

1996年、第1期科学技術基本計画が閣議決定されて以降、日本の科学研究には第1期から第3期までの15年間で累計66兆円という多額の公的予算が投入されつつある。そして科学研究予算の増大に合わせて納税者である国民への説明責任の強化が求められつつある。このように我が国の科学研究者は、社会の中の自己及び自己の研究の位置付けを考え、社会に向けて情報発信することが望まれるようになった。このような社会環境の中で我が国の科学研究者はいかに主体性と研究の自由を担保していくべきか？

今回の学内連携セミナーでこのような問題提起をさせていただきます。昼休みの時間に、お茶とサンドイッチとともに楽しみください。

The slide will be in English. Foreign audience are welcome!



社会へ向けた本学の科学コミュニケーションの実践事例  
JAIST「サイエンスカフェ石川」の様子 2008年2月

冬季の間、開催場所を変更します。K3・4講義室は、知識講義棟2F、学生課の向かいにあります。

学内連携セミナーは、JAISTで行われている研究の知識共有を目指しています。専門家以外も楽しめるセミナーを行いますので、ぜひ講師以外の研究科の方もご来聴下さい。

世話人：鶴木、小矢野、橋本、長谷川、戸田、寺倉

